

## 平成27年度 全国学力・学習状況調査結果について(小6・中3)

佐伯市では、市内の小学校6年生と中学校3年生を対象とし、平成27年4月21日(火)に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。以下は、その集計結果です。

### 【実施教科】

小6…国語、算数、理科の3教科  
 中3…国語、数学、理科の3教科

### 【実施内容】

国語A・算数A・数学A…主として「知識」に関する問題  
 国語B・算数B・数学B…主として「活用」に関する問題  
 理科…主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。  
 児童生徒質問紙、学校質問紙・・・生活習慣や学習環境等に関する学習状況調査

### 【用語解説】

#### ※A問題(主として「知識」に関する問題)

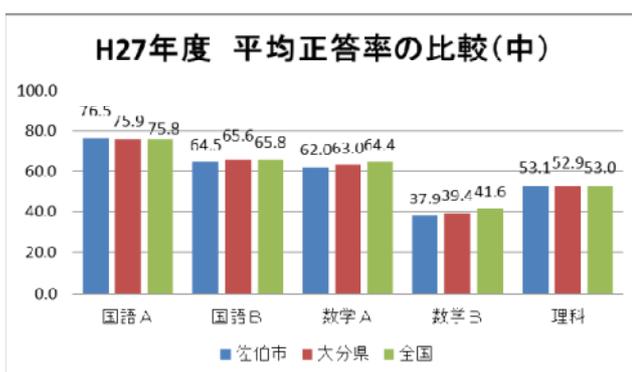
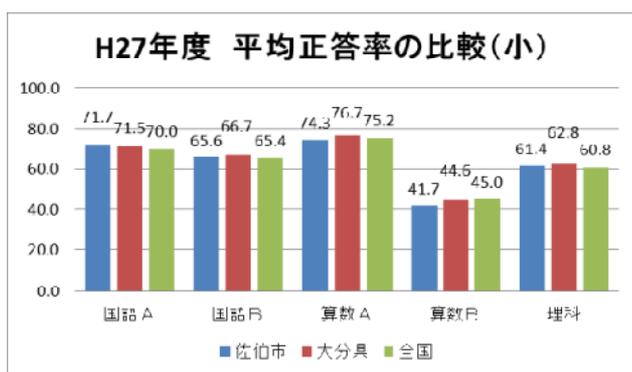
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっておくことが望ましい知識・技能などを中心とした出題

#### ※B問題(主として「活用」に関する問題)

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題

### 【平均正答率(全問題数のうち、どのくらいの問題を正答したかの割合)[%]の全体比較】

	小学校6年生					中学校3年生				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
佐伯市	71.7	65.6	74.3	41.7	61.4	76.5	64.5	62.0	37.9	53.1
大分県	71.5	66.7	76.7	44.6	62.8	75.9	65.6	63.0	39.4	52.9
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0



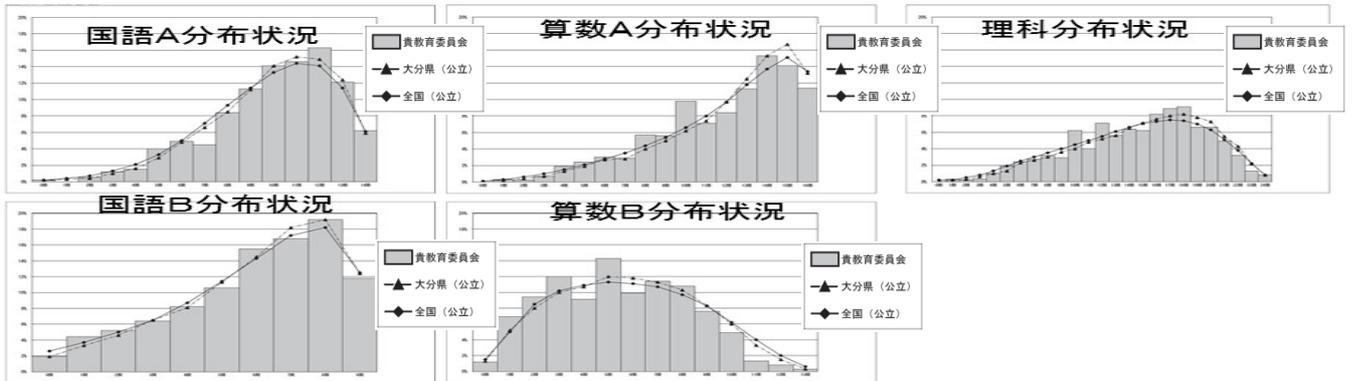
○A問題では、全国の平均正答率に比べ、小学校国語において1.7ポイント上回り、算数において0.9ポイント下回っている。中学校では、国語において0.7ポイント上回り、数学において2.4ポイント下回る結果となっている。

○B問題では、全国の平均正答率と比べ、小学校の国語において0.2ポイント上回り、算数において3.3ポイント下回っている。中学校において、国語で1.3ポイント、数学で3.7ポイント下回る結果となっている。

○理科では、全国の平均正答率に比べ、小学校において0.6ポイント、中学校において0.1ポイント上回った。

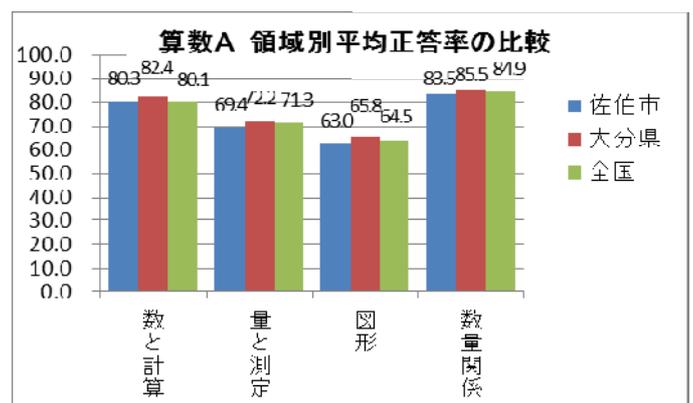
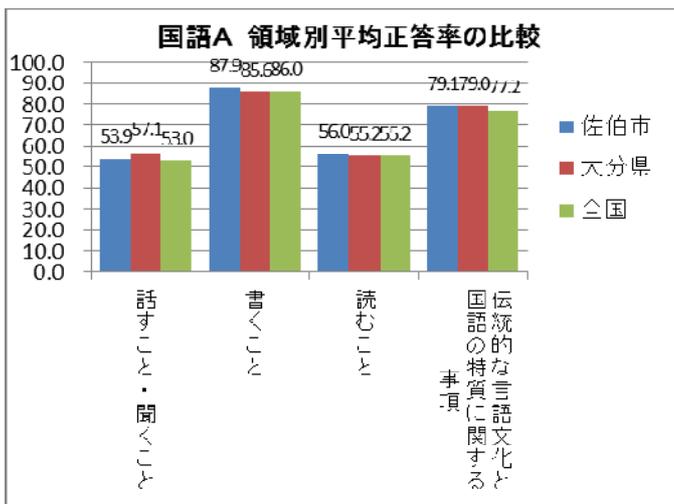
○小・中学校ともに活用問題への対応に課題がある。特に「理由を書く」「条件を基に考察する」等の正答率が低い。与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に捉え、学習した用語等を用いて説明したり、理由を述べたりする指導に引き続き取り組んでいく必要がある。

	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均 正答数	平均 正答率								
佐伯市	10.0/14	71.7	5.9/9	65.6	11.9/16	74.3	5.4/13	41.7	14.7/24	61.4
大分県	10.0/14	71.5	6.0/9	66.7	12.3/16	76.7	5.8/13	44.6	15.1/24	62.8
全国	9.8/14	70.0	5.9/9	65.4	12.0/16	75.2	5.9/13	45.0	14.6/24	60.8



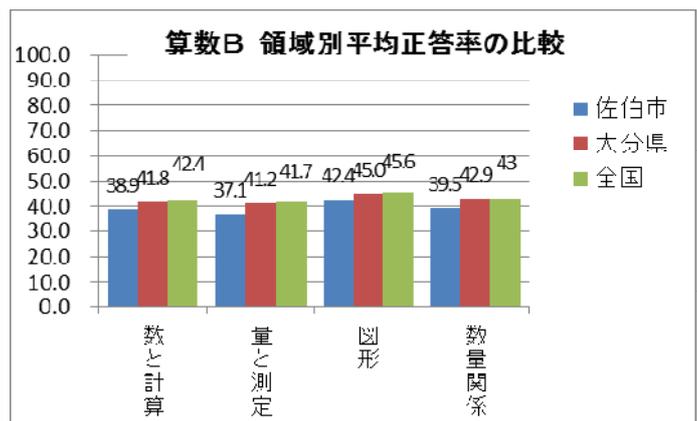
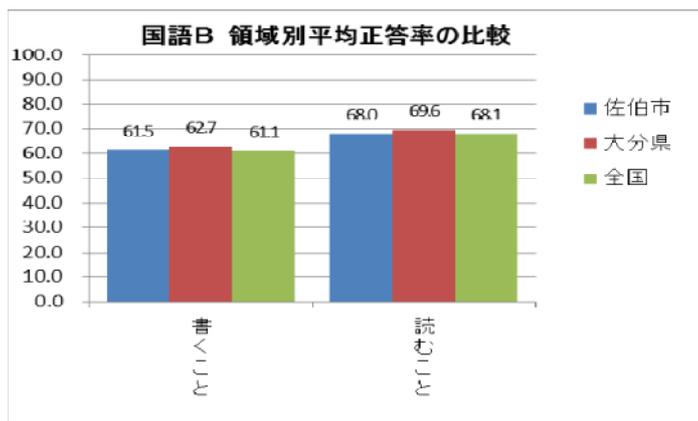
国語A	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	53.9	57.1	53.0
書くこと	87.9	85.6	86.0
読むこと	56.0	55.2	55.2
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.1	79.0	77.2

算数A	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と計算	80.3	82.4	80.1
量と測定	69.4	72.2	71.3
図形	63.0	65.8	64.5
数量関係	83.5	85.5	84.9



国語B	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
書くこと	61.5	62.7	61.1
読むこと	68.0	69.6	68.1

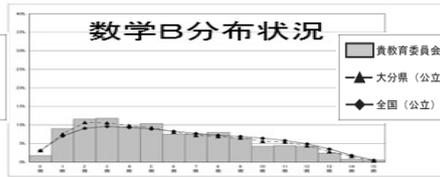
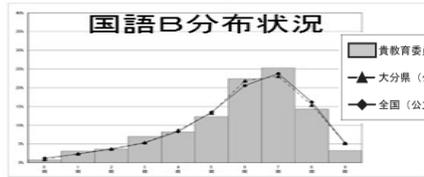
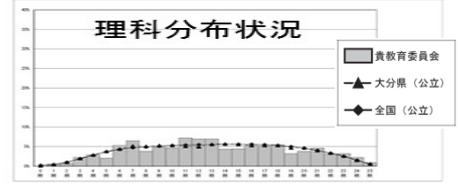
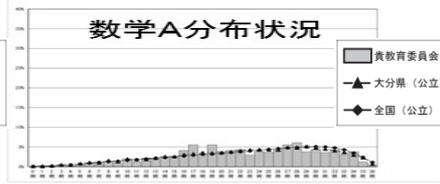
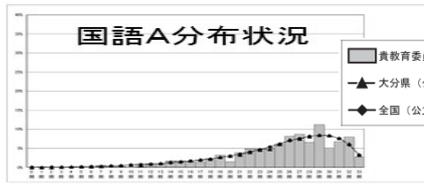
算数B	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と計算	38.9	41.8	42.4
量と測定	37.1	41.2	41.7
図形	42.4	45.0	45.6
数量関係	39.5	42.9	43.0



平成27年度全国学力学習状況調査概況(中学校)

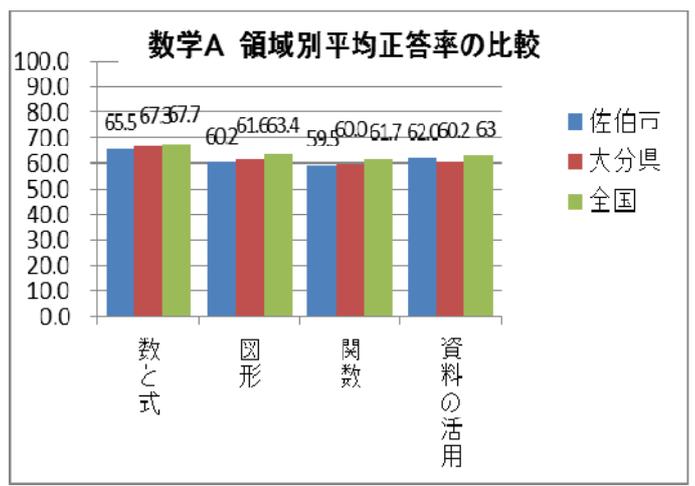
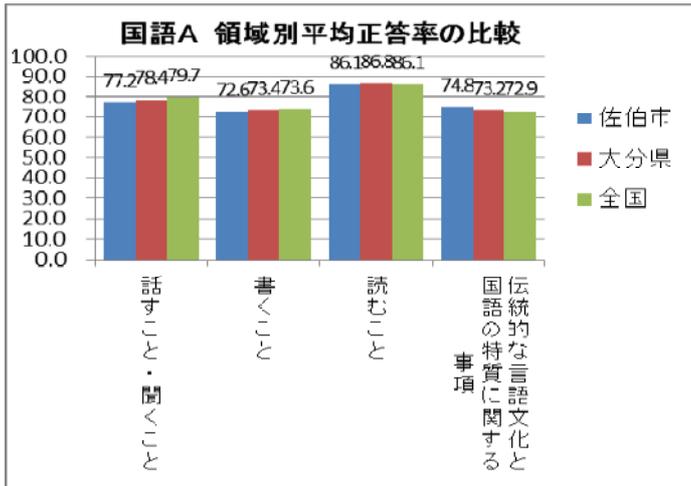
H27.4.21実施

	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均 正答数	平均 正答率								
佐伯市	25.2/33	76.5	5.8/9	64.5	22.3/36	62.0	5.7/15	37.9	13.3/25	53.1
大分県	25.0/33	75.9	5.9/9	65.6	22.7/36	63.0	5.9/15	39.4	13.2/25	52.9
全国	25.0/33	75.8	5.9/9	65.8	23.2/36	64.4	6.2/15	41.6	13.3/25	53.0



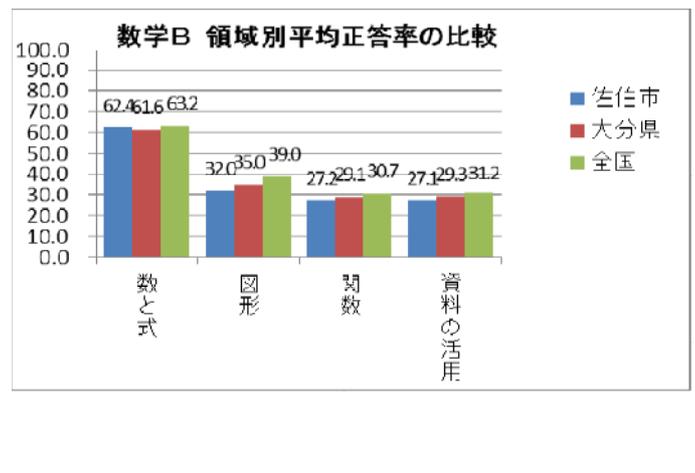
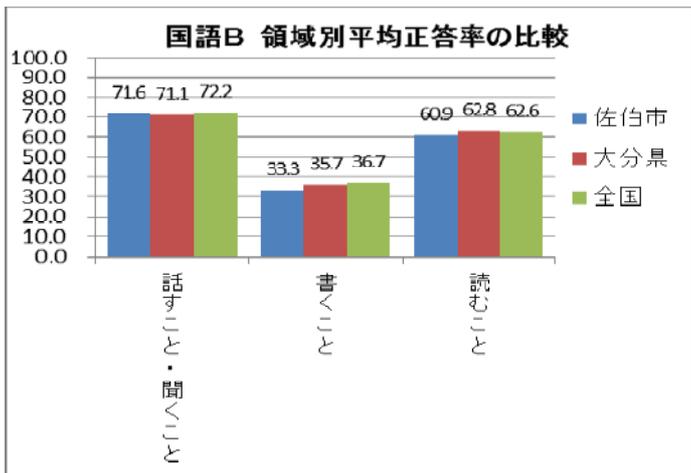
国語A	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	77.2	78.4	79.7
書くこと	72.6	73.4	73.6
読むこと	86.1	86.8	86.1
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.8	73.2	72.9

数学A	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と式	65.5	67.3	67.7
図形	60.2	61.6	63.4
関数	59.5	60.0	61.7
資料の活用	62.0	60.2	63.0



国語B	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	71.6	71.1	72.2
書くこと	33.3	35.7	36.7
読むこと	60.9	62.8	62.6

数学B	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と式	62.4	61.6	63.2
図形	32.0	35.0	39.0
関数	27.2	29.1	30.7
資料の活用	27.1	29.3	31.2



# 小学校国語

## A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	71.7%
大分県の平均正答率	71.5%
全国の平均正答率	70.0%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

### ○設問数14問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・6問(大分県5問、全国4問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・11問(大分県10問)
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・5問(大分県4問、全国5問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・3問(大分県4問)

### ①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題(正答率60%未満の問題)>

#### 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◆〔1二(1)〕「シャワーをあびる」を書く。(59.6%)  
→「浴」という漢字を正しく書くことに課題がある。
- ◆〔2一〕文の主語として適切なものを選択する。(56.4%)  
→文の中における主語を捉えることに課題がある。

#### 【話すこと・聞くこと】

- ◆〔3〕聞き方の説明として適切なものを選択する。(53.9%)  
→話の内容に対する聞き方を工夫することに課題がある。

#### 【読むこと】

- ◆〔5一〕コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する。(57.9%)  
→新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えることに課題がある。
- ◆〔5二〕コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く。(22.1%)  
→「引用」とは、本や文章の一節や文、語句などを引いてくることであると理解することに課題がある。

### ②具体的な改善方策

○漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定する。

- ・身の回りにある新聞や情報誌等に、習った漢字があるかどうか探す活動を設ける。
- ・書いた文章を読み返し、文や文章の中で果たす漢字の意味を捉えた上で、正しく使用しているかどうか評価する活動を取り入れる。

○目的や意図に応じて聞き方を工夫する

- ・相手の話を聞く際は、相手の話の目的や意図を捉えながら内容を十分聞き取るとともに、取り上げられた内容について、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめるように指導する。

○目的に応じて、適切に引用する。

- ・引用については、かぎ(「 」)で括ることなど、引用の仕方を指導するとともに、引用したことについて、児童が自分の思いや考えを書くことなども指導する。また、児童が引用する目的意識や必要性を十分に持てる言語活動を位置付け、課題解決の過程において指導する。

# 小学校国語

佐伯市の平均正答率	65.6%
大分県の平均正答率	66.7%
全国の平均正答率	65.4%

## B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

### ○設問数9問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・4問(大分県5問、全国5問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・4問(大分県7問)
- ◆平均正答率50%未満の問題・・・2問(大分県2問、全国2問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・5問(大分県2問)

### ①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題(正答率60%未満の問題)>

#### 【書くこと】

- ◆〔1三〕【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く。(34.5%)  
→目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題がある。
- ◆〔2三〕楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く。(42.1%)  
→文章と図とを関係付けて、自分の考えを書くことに課題がある。

#### 【読むこと】

- ◆〔3一〕〈絵3〉の場面が始まるまとまりとして適切なものを選択する。(59.4%)  
→登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えることに課題がある。

### ②具体的な改善方策

○目的や意図に応じ、取材した複数の内容を整理して記事を書く。

- ・読み手に伝えたいことの内容を明確にした上で、自分で調べた内容や、関係者に取材した事柄の中から取捨選択し、伝えたいことが読み手に伝わるように、整理して記事を書くようにする。

○図表やグラフなどを読み、効果的に用いる。

- ・図表やグラフ、絵、写真などからどのようなことを読み取ることができるのか、算数科等における既習事項も踏まえて指導する。また、身の回りから、図表やグラフ、絵、写真などが用いられている文章や新聞記事を探し、それらの資料が用いられた意図や効果について考えるようにする。

○登場人物の行動や会話、情景を基にして場面の移り変わりを捉える。

- ・各場面の様子を、登場人物の行動や会話、情景などの叙述を根拠にしながら、的確に捉えるとともに、場面と場面とを関係付けて読む指導を行う。物語の展開に即して、「いつ」、「どこで」、「だれが」、「何をして」、「どう思ったか」等を中心に物語のあらすじをまとめることで、場面の移り変わりを捉えることができるようにする。

# 小学校算数

## A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	74.3%
大分県の平均正答率	76.7%
全国の平均正答率	75.2%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数16問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・5問(大分県7問、全国7問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・4問
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・2問(大分県2問、全国2問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・12問

### ①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題(正答率60%未満の問題)>

#### 【量と測定】

- ◆〔4(2)〕 $180^\circ$ や $360^\circ$ を基に分度器を用いて、 $180^\circ$ よりも大きい角の大きさを求めることができる。(53.5%)  
→ $180^\circ$ よりも大きい角の大きさを求めることに課題がある。

#### 【図形】

- ◆〔5(1)〕示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を、選択することができる。(48.7%)  
→示された三角形が二等辺三角形になる根拠を円の性質と関連付けて判断することに課題がある。

### ②具体的な改善方策

○分度器を用いて、角の大きさを正確に測定できるようにする。

- ・本設問を用いて、 $180^\circ$ よりも大きな角を求めるために、補角を用いた測定方法を判断する活動を取り入れる。いくつかの角の大きさを示し、確実に角の大きさを測定できるようにする。

○図形の構成を、図形の特徴と関連付けて捉えることができるようにする。

- ・作図などの活動を通して、図形のどのような特徴を用いているかを確認する。本設問の図形を示し、円のどのような特徴を用いれば、示された図のような二等辺三角形が作図できるか予想する場を設ける。その上で、実際に作図しながら、操作と予想した特徴を関連付け、なぜその特徴が作図で必要だったのかを話し合う活動を設けるようにする。

# 小学校算数

## B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	41.7%
大分県の平均正答率	44.6%
全国の平均正答率	45.0%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数13問

◇平均正答率70%以上の問題・・・1問(大分県1問、全国1問)

◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・1問

◆平均正答率50%未満の問題・・・8問(大分県7問、全国7問)

◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・12問

### ①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題(正答率40%未満の問題)>

#### 【図形】

◆〔1(3)〕示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を記述できる。(28.8%)

→示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を言葉と記号を用いて記述することに課題がある。

◆〔3(1)〕正三角形の性質を基に、示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求めることができる。(29.3%)

→正三角形の性質を基に、示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求めることに課題がある。

◆〔5(1)〕長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる。(7.2%)

→条件を変更した場面に面積を2等分する考えを適用して、示された部分の面積を求めることに課題がある。

#### 【数量関係】

◆〔2(2)〕示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる。(8.9%)

→示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることに課題がある。

#### 【数と計算】

◆〔4(3)〕概数を用いた見積りの結果とそれに基づく判断を理解し、3000個集めればよい理由を記述できる。(16.7%)

→目的に応じた見積り方で求めた結果を基に、3000個集めればよい理由を記述することに課題がある。

### ②具体的な改善方策

○図形の約束や性質を用いて事象を的確に判断したり考察したりできるようにする。

・本設問のような地図を用いて、日常の事象の中から図形を見いだすために、「地図の中からどのような図形が見付かりますか。」と問い、図形を構成する辺の長さや角の大きさ、それらの数などに注目して地図の情報と図形の性質を関連付ける。また、見いだした図形の性質を基に日常の事象を解決するために、「道のりに関係する平行四辺形の約束や性質は何か」、「その性質を使うとどのようなことが言えるか」について話し合う場を設けるようにする。

○日常生活の事象を図形と関連付けて考えることができるようにする。

・正三角形をつくる時、「どのようにすると正三角形をつくることができるのか。」と見通しを立てたり、「正三角形を作ることができたのは、正三角形のどのような約束や性質を用いたからなのか。」と振り返ったりする活動を取り入れる。

○示された考えを基に、根拠となる事項を過不足なく説明することができるようにする。

・前提となる考えや理由などの根拠を明らかにして、論理的に考えたり説明したりする。

○示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉え、基準量を正しく求めることができるようにする。

・図や数直線に表すことなどを通して、「比較量である増量後の量は、基準量となる増量前の量の120%に当たる」、「□の1.2倍が480だから、式は、 $\square \times 1.2 = 480$ になる。」というように数量の関係を整理して捉えた上で、基準量を求めることができるようにする。

○見積り方や見積り結果を基に、根拠となる事柄を過不足なく説明することができるようにする。

・目的に応じた見積り方の学習において、「計算の結果の見積りを判断する」算数的活動の中で、判断したこと根拠を過不足なく挙げて説明する場を学習指導の中に取り入れるようにする。

# 中学校国語

佐伯市の平均正答率	76.5%
大分県の平均正答率	75.9%
全国の平均正答率	75.8%

## A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

### ○設問数33問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・16問(大分県15問、全国14問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・15問(大分県15問)
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・4問(大分県4問、全国5問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・18問(大分県18問)

### ①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題(正答率60%未満の問題)>

#### 【話すこと・聞くこと】

- ◆〔6一〕二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する。(50.1%)  
→互いの発言を検討して共通点や相違点を整理することに課題がある。

#### 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◆〔8四〕国語辞典で調べたことを基に、語句の意味を書く(英気を養う)。(53.5%)  
→複数の語の意味を的確に合わせて理解することに課題がある。

### ②具体的な改善方策

#### ○話し合いの目的を踏まえた上で、観点に沿って発言を整理する。

- ・複数の案から一つに絞り込む話し合いを行う際には、目的に応じて発言を整理しながら、議論の焦点を明確にする必要がある。どのような観点で整理するかを明確にし、どのような図表を活用するのが有効かを考え、共通点や相違点など様々な観点に沿って発言を整理する学習活動を行うようにする。

#### ○辞書を活用する。

- ・辞書を活用する際には、辞書の記述の仕方を理解した上で活用する。また、難語句を調べる際には、文脈に沿って語句の意味を選び、それが文中の意味として適切かどうかを確認する。

# 中学校国語

## B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	64.5%
大分県の平均正答率	65.6%
全国の平均正答率	65.8%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

### ○設問数 9 問

- ◇平均正答率 70% 以上の問題・・・ 5 問 (大分県 5 問、全国 5 問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・ 3 問 (大分県 5 問)
- ◆平均正答率 50% 未満の問題・・・ 2 問 (大分県 2 問、全国 2 問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・ 6 問 (大分県 4 問)

### ①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題 (正答率 50% 未満の問題) >

#### 【書くこと】【読むこと】

- ◆〔2三〕資料を参考にして 2020 年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く。(20.3%)  
→多様な情報に触れながら問題意識をもったり新たな発想を得たりすることに課題がある。
- ◆〔3三〕文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く(25.3%)  
→最後の一文があった方がよいか、ない方がよいかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書くことに課題がある。

### ②具体的な改善方策

#### ○多様な情報に触れながら、自分の考えをもつ

- ・多様な情報に触れながら問題意識をもったり新たな発想を得たりするためには、複数の本や資料から得た情報を自分と結び付けて考えるようにする。その際、それぞれの資料に書かれていることを正確に理解した上で、感じたことや考えたことを他の人に話したり、文章に書いたりして、新たな気付きや問題意識を明らかにしていくようにする。

#### ○文章の展開について、根拠を明確にして自分の考えをもつ

- ・文章の展開について自分の考えをもつためには、作品の全体像を捉えた上で、場面の役割等を分析的に考える必要がある。例えば、この場面がなかったらどのように作品全体の印象が変わるかなどについて、根拠を示しながら書いたり、話し合ったりする学習活動を行う。その際、自分の考えを支える根拠が明確に示されているかどうかを検討するようにする。

# 中学校数学

## A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	62.0%
大分県の平均正答率	63.0%
全国の平均正答率	64.4%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

### ○設問数36問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・7問(大分県6問、全国8問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・10問(大分県7問)
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・17問(大分県15問、全国15問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・26問(大分県29問)

### ①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題(正答率40%未満の問題)>

#### 【数と式】

- ◆〔2(2)〕赤いテープの長さが  $a$  cm で、白いテープの長さの  $\frac{3}{5}$  倍のとき、白いテープの長さを  $a$  を用いた式で表す。(16.7%)  
→数量の関係を文字式に表すことに課題がある。
- ◆〔3(3)〕連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を表した式を選ぶ。(33.3%)  
→具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることに課題がある。

#### 【図形】

- ◆〔7(3)〕与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ。(39.4%)  
→作図の根拠として用いられている平行四辺形になるための条件の理解に課題がある。
- ◆〔8〕対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ。(22.9%)  
→証明の必要性和意味の理解に課題がある。

#### 【関数】

- ◆〔13〕二元一次方程式  $x+y=3$  の解を座標とする点の集合として正しいものを選ぶ。(34.3%)  
→二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることへの理解に課題がある。

### ②具体的な改善方策

- 事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるようにする
  - ・関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるように指導する。
- 着目する数量を見だし、方程式をつくることができるようにする
  - ・方程式を利用して問題解決をする場面では、問題の中の数量やその関係から、2通りに表すことができる数量を見だし、方程式をつくることができるように指導する。
- 平行四辺形になるための条件を具体的な場面で用いることができるようにする
  - ・平行四辺形の作図の過程や具体物に見られる平行四辺形になるための条件を指摘する活動を取り入れ、平行四辺形になるための条件を具体的な場面で捉え、それをを用いることができるように指導する。
- 帰納と演繹の違いを理解し、証明の必要性和意味についての理解を深められるようにする
  - ・対頂角の性質や三角形の内角の和、平行四辺形の性質などの学習において、帰納的な方法による説明と比較しながら、演繹的な推論による説明の役割を理解する場面を設定し、証明の必要性和意味についての理解を深められるように指導する。
- 二元一次方程式の解を座標とする点の集合が直線になることを理解できるようにする
  - ・方程式と関数を相互に関連付けて捉える活動を取り入れ、二元一次方程式の解を座標とする点の集合が直線になることを理解できるように指導する。

# 中学校数学

## B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	37.9%
大分県の平均正答率	39.4%
全国の平均正答率	41.6%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 15問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・1問(大分県1問、全国1問)
  - ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・2問(大分県0問)
    - ◆平均正答率50%未満の問題・・・12問(大分県11問、全国12問)
    - ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・13問(大分県15問)

### ①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題(正答率40%未満の問題問題)>

#### 【図形】

- ◆〔3(1)〕ポップアップカードを $90^\circ$ に開いたとき、四角形EFGHが正方形になる場合のEFの長さを求める。(38.0%)  
→平面図形と空間図形を関連付けて事象を考察し、その特徴を的確に捉えることに課題がある。
- ◆〔3(2)〕四角形EFGHがいつでも平行四辺形になるように点Fの位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する。(16.7%)  
→事象を図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて数学的に説明することに課題がある。
- ◆〔4(1)〕証明で用いた三角形の合同を根拠として、証明したこと以外に新たにわかることを選ぶ。(33.2%)  
→証明を振り返り、新たな性質を見いだすことに課題がある。

#### 【関数】

- ◆〔1(1)〕投映距離と投映画面の高さの関係を式で表す。(28.1%)  
→与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに課題がある。
- ◆〔1(2)〕投映画面がスクリーンに収まり、できるだけ大きく映し出すことができる投映距離を選ぶ。(32.2%)  
→与えられた情報から必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することに課題がある。
- ◆〔1(3)〕映像の明るさを2倍にするための投映画面の面積の変え方を選び、その理由を説明する。(9.0%)  
→事象を式の意味に即して解釈し、その結果について、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- ◆〔6(2)〕底面になる円の半径の長さが8cmのとき、表や式から、側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求める方法を説明する。(24.4%)  
→与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することに課題がある。

#### 【資料の活用】

- ◆〔5(1)〕1回目の調査で、落とし物の合計のうち、文具具の占める割合を求める式を答える。(34.9%)  
→与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに課題がある。
- ◆〔5(2)〕2回目の調査の方が落とし物の状況がよくなったとは言い切れないと主張することもできる理由を、グラフを基に説明する。(19.3%)  
→資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

### ②具体的な改善方策

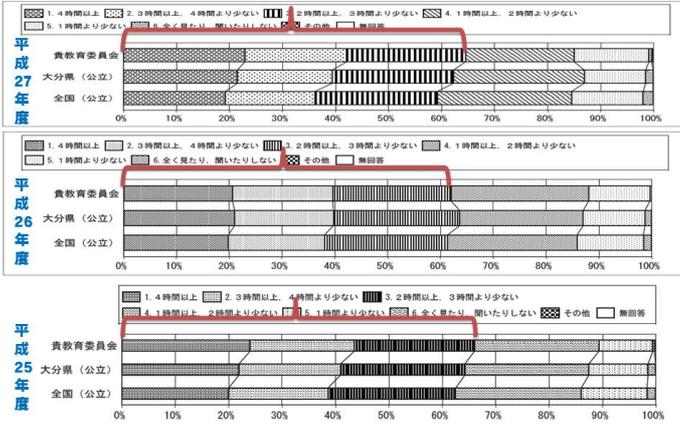
- 日常的な事象を図形に着目して観察し、その特徴を的確に捉えられるようにする
  - ・観察、操作や実験などの活動を取り入れ、日常的な事象の特徴を図形やその構成要素に着目して的確に捉えることができるように指導する。
- 問題解決の方法や手順を、数学的な表現を用いて的確に説明できるようにする
  - ・様々な問題を解決できるようにするために、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、図形の性質などの「用いるもの」とその「用い方」について明らかにすることができるように指導する。
- 証明を振り返り、新たな性質を見いだすことができるようにする
  - ・証明を書くことだけでなく、証明を読む場面を設定し、証明の結果や過程を振り返り、新たな性質を見いだすことができるように指導する。
- 目的に応じて必要な情報を選択し、的確に処理することができるようにする
  - ・事象を数学的に考察する場面を取り入れ、図や表などで与えられた情報から目的に応じて必要な情報を選択し、的確に処理することができるように指導する。
- 目的に応じて必要な情報を選択し、事象に即して数学を活用できるようにする
  - ・実生活の場面での問題を解決する活動を取り入れ、与えられた情報から目的に応じて必要な情報を適切に選択し、事象に即して数学を活用できるように指導する。
- 日常的な事象について、言葉で表された式の数学的な意味を考えられるようにする
  - ・日常的な事象における3つの数量の関係について、言葉で表された式を取り上げ、3つの数量のうちの1つを定数とみて、残りの2つの数量の関係を捉える場面を設定し、その式の数学的な意味を考えられるように指導する。
- 問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする。
- 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるようにする
  - ・実生活の場面で、事象を目的に応じて数値化して判断する場面を設定し、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるように指導する。
- 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする
  - ・ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向を捉え説明する場面を設定し、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする。

# 平成27年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

## 1 調査結果の概要

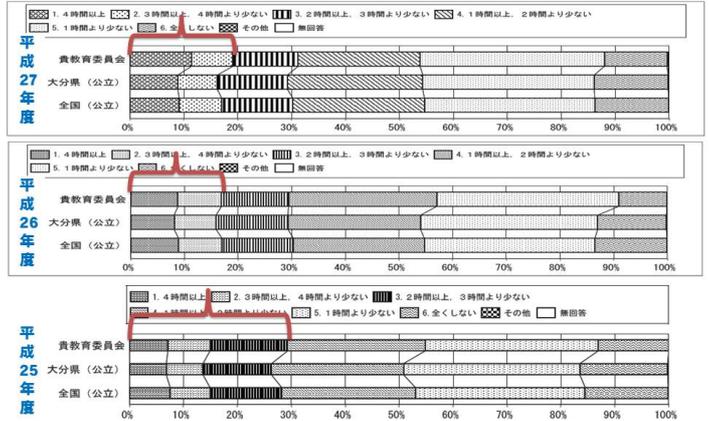
### 小・質問紙調査より 平日のテレビ等の視聴

TV 3時間以上見る児童はやや増加している



### 小・質問紙調査より 平日のゲーム等

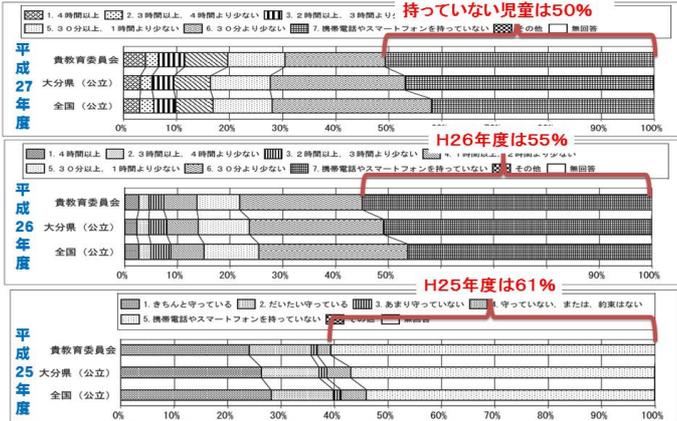
3時間以上ゲームをする児童が増加している



### 小・質問紙調査より 携帯電話・スマートフォン等

携帯電話の所持率は年々増加している

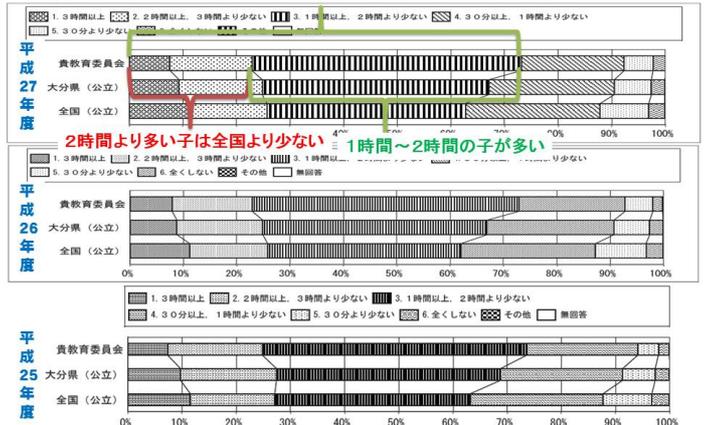
携帯電話やスマートフォンを持っていない児童は50%



### 小・質問紙調査より 学習時間（塾や家庭教師含む）

平日

1時間以上学習する児童は多い



### 小・質問紙調査より 授業の様子

グループで調べる活動 していると答えた児童が多い



### 小・質問紙調査より 授業の様子

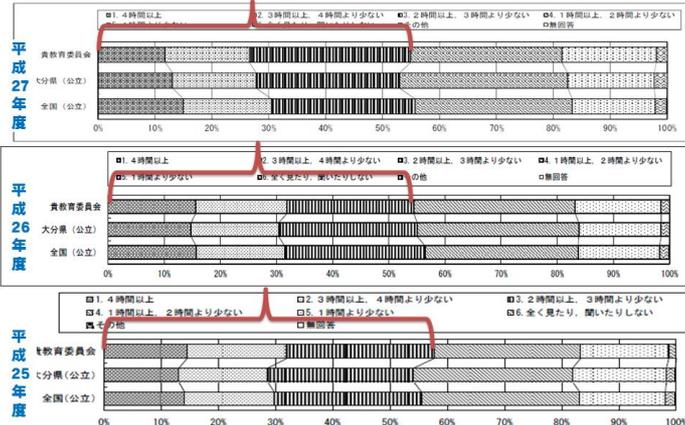
授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたか

当てはまると答えた児童が多い



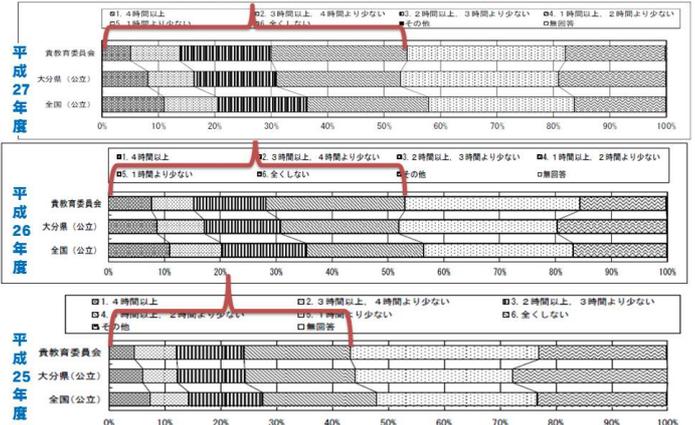
## 中・質問紙調査より 平日のテレビ等の視聴

2時間以上TVを見る生徒が多い(26年度より少し増加)



## 中・質問紙調査より 平日のゲーム等

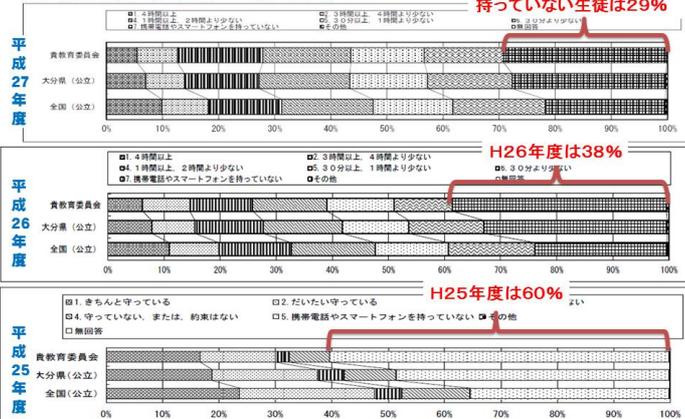
ゲームを1時間以上する生徒が25年度より増加している



## 中・質問紙調査より 携帯電話やスマートフォン等

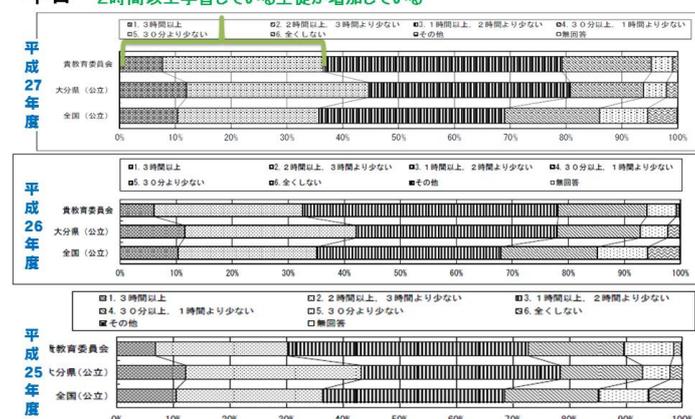
約7割の生徒が携帯電話等を持っている

携帯電話やスマートフォンを持っていない生徒は29%



## 中・質問紙調査より 学習時間(塾や家庭教師含む)

平日 2時間以上学習している生徒が増加している



## 中・質問紙調査より 授業の様子

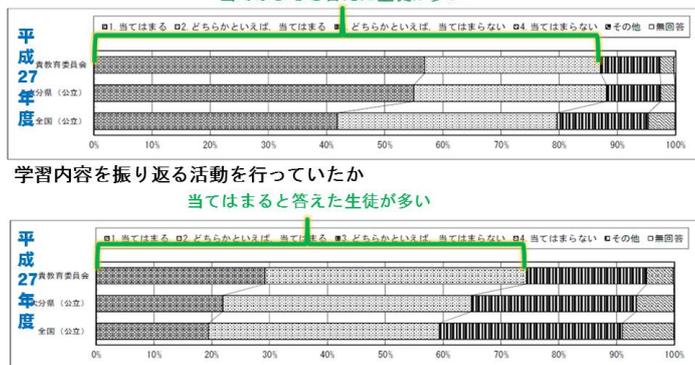
グループで調べる活動 当てはまると答えた生徒が多い



## 中・質問紙調査より 授業の様子

授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたか

当てはまると答えた生徒が多い



## 2 児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・ゲームやテレビの時間、携帯電話等の扱いに関するルール作り等、望ましい生活リズムの確立を目指して、具体的な目標や手立てを家庭と協働して取り組む必要がある。
- ・家庭学習の習慣が身についている児童・生徒は多い。学習内容の定着確認・補充のための課題や自ら調べたり考えたりする活動を促すための課題を課す等、授業と宿題をつないだ家庭学習の時間の意図的・計画的な拡充をさらに進める必要がある。
- ・中学校において、グループで調べることや、自分の考えを發表すること、話し合う活動を充実させる必要がある。
- ・授業のはじめに、目標は示されているが、学習内容を振り返る活動を充実させる必要がある。

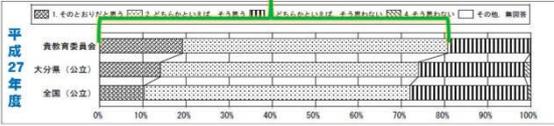
# 平成27年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

## 1 調査結果の概要

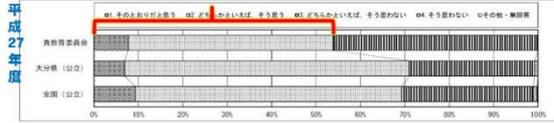
### 学校質問紙調査より 授業の様子

話し合いなどの活動で、自分の考えを伝えることができるか

小学校 そう思うと答えた学校が大幅に増えた（昨年度56%）



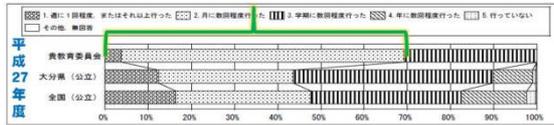
中学校 そう思うと答えた学校は全国より少ない



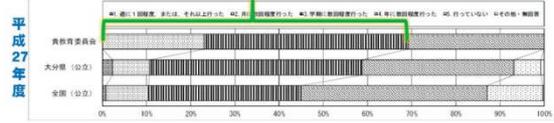
### 学校質問紙調査より 授業の様子

前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行ったか

小学校 週に1回程度の項目は少ないが、月に数回程度の項目は全国より多い



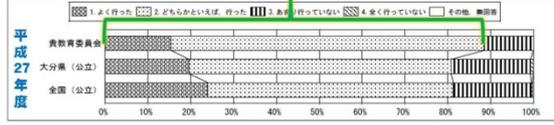
中学校 月に数回、学期に数回程度行った学校は全国より多い



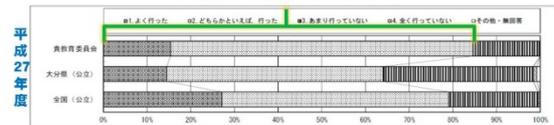
### 学校質問紙調査より 授業の様子

総合的な学習の時間において、探究の過程を意識した指導を行ったか

小学校 昨年度より10ポイント増えている



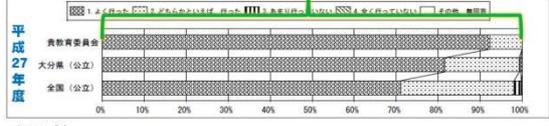
中学校 昨年度より15ポイント増えている



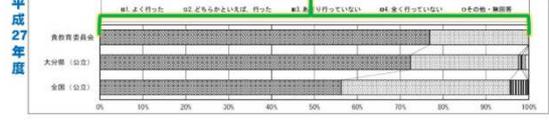
### 学校質問紙調査より 授業の様子

授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を取り入れたか

小学校 全ての学校で行われている



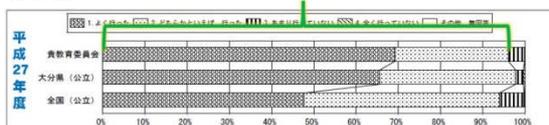
中学校 全ての学校で行われている



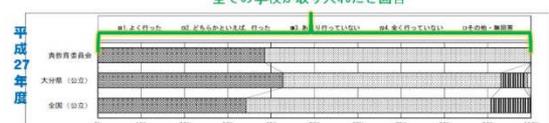
### 学校質問紙調査より 授業の様子

授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたか

小学校 全国より多いが、県より少ない



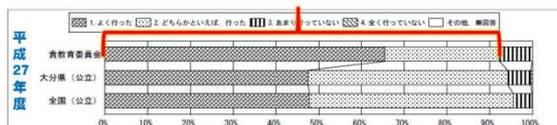
中学校 全ての学校が取り入れたと回答



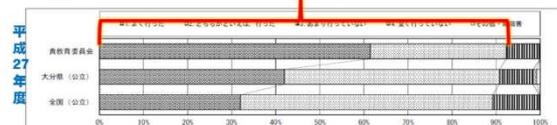
### 学校質問紙調査より 授業の様子

学級やグループで話し合う活動を授業などで行ったか

小学校 昨年度は100%だったが7.7ポイント減少している



中学校 昨年度は100%だったが7.7ポイント減少している



## 2 学校質問紙調査の結果をふまえて

- ・昨年度と比較すると改善が見られるが、話し合い活動等の中で、自分の考えを伝えることについて課題を感じている学校が多い。
- ・学校図書館を活用した授業への意識は高まっているが、実施頻度に課題がある。並行読書の実施等、各教科・領域の教育課程と学校図書館活用を関連させた取組の見直しを行う必要がある。
- ・どの学校においても授業改善が進んでおり、目標を示すことや、話し合う活動、学習内容を振り返る活動を取り入れた授業を行っているとは回答されているが、児童・生徒の捉え方との差が見られる。
- ・総合的な学習の時間において、探究の過程を意識した取組に改善が見られる。小・中一貫したカリキュラムを設定し、さらに充実させた取組を進めていく必要がある。

## 今後の取組について

平成27年度の全国学力・学習状況調査と大分県学力定着状況調査の結果をもとに、佐伯管内の課題から各学校が共通して取り組む事項として「今後の学力向上に関する取組の徹底」を改訂し、課題の改善に向けた取組を進めていきます。

改訂版 2015. 9. 10

### 「新大分スタンダード」に基づく

### 平成27年度「今後の学力向上に関する取組の徹底」

#### 主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の実現

#### □共通

##### 1 条件を付けて読み書きする指導の徹底

- (1) 学校図書館を活用し、並行読書・比べ読み・ブックトーク等、本に親しむ活動を実施する。
- (2) 文章・図表等から必要な情報を取り出し、それを活用して理由を説明したり、自分の考えや意見を書いたりする活動を実施する。
- (3) 単元構想に基づき、思考ツール等を活用した情報の整理・分析を行い、立場や根拠を明確にした話し合い活動を設定する。
- (4) 条件（構成、字数、キーワード等）を指定し、学習した用語を活用した書く活動をまとめや振り返りの中に設定する。

##### 2 授業と宿題をつなぐ意図的・計画的な家庭学習の充実

- (1) 学習内容の定着確認・補充のための課題や自ら調べたり考えたりする活動を促すための課題を課す。
- (2) 望ましい生活リズムの確立に向けた具体的な目標や手立てを保護者と共に設定し、協働して取り組む。

##### 3 探究的・協働的な「総合的な学習の時間」の改善と確実な実施

- (1) 付けたい力や学習内容が小・中で一貫したカリキュラムに改善する。
- (2) 「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」のサイクルで探究的な単元展開を行う。

#### □小学校

##### 1 2か月程度を単位とした評価テスト等の確実な実施

- (1) 学期の半ばや終わりに2～3の単元等を範囲として評価し、補充する。
- (2) 各学年の課題や対策を学年外とも共有し、全校体制で改善に取り組む。

#### □中学校

##### 1 単元構想に基づいた問題解決的な展開の授業の確実な実施

- (1) 「課題→見通し→自力解決→交流→まとめ・振り返り」の流れを位置付けた授業を実施する。
- (2) 授業で学んだことが転用できるか、定着が不十分な事柄がないかを評価し、必要に応じて補充する。